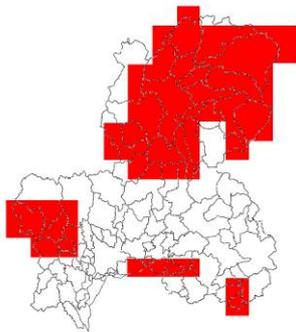


ヤマナシ	<i>Pyrus pyrifolia</i> (Burm.f.) Nakai var. <i>pyrifolia</i>	情報不足
		バラ科
選定理由	県内では産地がある程度限られるやや稀な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅にすぐ直結することはないが、生育地の消滅が継続的に起これば、県内個体の絶滅につながるため。県内の個体は全てまたは大半が植栽または逸出起源と推定され、国内の個体も有史以前の移入とする説が有力で、自生個体の分布は不明。	写真(高野裕行) 
形態の特徴	落葉高木。葉身は卵形-狭卵形、鋭尖頭、芒状の鋸歯縁。展葉時、4月、散房花序に径3cm弱の5-10花が着く。花筒は漏斗形。萼片5、狭卵形、腺のある歯牙縁。花弁5、白色。雄蕊約20。花柱5、離生。8-10月、皮目を密生し、径2-5(-10)cmで萼片がない梨状果は黄褐-黄緑熟する。果肉は多汁、黄白色、石細胞があり、食べられる。	
生態的特徴	丘陵地や山地の二次林や落葉広葉樹植林に生育する。集落付近にも見られる。	
分布状況	本州、四国、九州。中国。県内には点在する。個体数は少ない。	
減少要因	山林全体の林冠の鬱閉化のため生じる日照不足からの個体更新や生育の不良。	
保全対策	山林管理の促進による、林床の日照確保。	
特記事項	有史以前に中国から移入されて野生化し、国内の個体は自生ではないとの説が有力。マメナシ(イヌナシ)との雑種のアイナシ <i>Pyrus × uyematsuana</i> Makinoは野生絶滅状態で、植栽されている。(写真はアイナシ)	
参考文献	岐阜県の植物. 1966. 岐阜県高等学校生物教育研究会編. 大衆書房. Flora of Japan. Volume II b. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Rosaceae 16. <i>Pyrus</i> L. H. Iketani and H. Ohashi	

文責: 高野裕行